日付：2017年02月06日 9:31:05

一般診断法
現状

耐震診断（一般診断法）

建物名 財来一郎(在来軸組構法)

１．総合評価

２．上部構造評点

３．壁の耐力明細表

４．開口壁の耐力明細表(有開口壁長による計算のみ)

~~５．柱保有耐力明細表（伝統的構法のみ）~~

６．偏心率計算表

７．偏心率計算表（明細）

８．劣化度による低減係数 算定表

一般診断法平面図

一般診断法平面図(壁材種表示)

注意事項

- 本ソフトウェアは、一般財団法人日本建築防災協会発行の2012年改訂版「木造住宅の耐震診断と補強方法」の一般診断法に準拠した結果を出力しています。
- 2012年改訂版「木造住宅の耐震診断と補強方法」の一般診断法は、耐震補強等の必要性の判定を目的としています。一般診断法において、補強が必要と判定された場合は、さらに精密診断法による判定を実施し、補強の要否の最終的な診断を行って下さい。
- 2012年改訂版「木造住宅の耐震診断と補強方法」では診断の対象とする地震を、建物がその耐用年数の間にごくまれに遭遇するかもしれない大地震動としています。
- 地震被害想定３次元ＣＧは、”一般診断法”による評点を用いて住宅の耐震性能を表現しておりますが、実際の地震に遭遇したときの倒壊状況を正確に表現しているわけではありません。
  このため、地震被害想定３次元ＣＧでは結果が過大に表現される場合があります。
- 実際の倒壊の可能性及び、補強の必要性の判断については、この結果のみで判断するのではなく、”精密診断法”の診断結果を元に、総合的な判断を行なうことを推奨します。
- 本ソフトウェアの診断結果に問題がなくても、地震による被害を受けないことを保証するものではありません。

<一般診断法>

ホームズ君耐震診断Pro Ver.4.1.1.7(2012年改訂版)

一般診断法
現状

1. 総合評価

日付:2017年02月06日 9:31:05
建物コード:000000
財来一郎(在来軸組構法)

建物概要

調査日	2004年10月01日	診断者	財来一郎		
建物名称	財来一郎(在来軸組構法)	備考	在来構法		
		多雪区域区分	一般	係数	0
建築地	つくば市東2-31-18	地震地域係数Z	1.00	係数	1.00
建物用途	住宅	短辺長さ	1階:6m以上　2階:6m以上		
竣工年月(築年数)	1980年9月(昭和55年)(築10年以上)	混構造割増	木造	係数	1.0
構法	在来軸組構法	軟弱地盤割増	軟弱地盤ではない。	係数	1.0
建物重量	重い建物	必要耐力割増	1階:1.00　2階:1.00		
外壁材種	木ずり下地モルタル塗壁	基礎形式	Ⅱ 軽微なひび割れのある無筋コンクリート基礎		
外壁材壁強さ倍率	2.20 (kN/m)	柱頭柱脚接合部	Ⅲ、Ⅳ 3kN未満		
2階床面積	77.84㎡ (23.55坪)	木製筋かい接合部	釘打ち(2-N75程度)以下		
1階床面積	89.43㎡ (27.05坪)	床仕様	Ⅱ 火打ち+荒板		
階高	1階:2800mm　2階:2800mm	必要耐力計算方法	各階の床面積比を考慮した方法		
有開口壁の耐力計算方法	有開口壁長による算定	配置低減計算方法	偏心率を使用した方法		

地盤・地形・基礎形式

地盤	対策	選択	注意事項
よい・普通		●	特になし
悪い			
非常に悪い(埋立地、盛り土、軟弱地盤)	表層の地盤改良を行なっている		
	杭基礎である		
	特別な対策を行なっていない		
	その他		

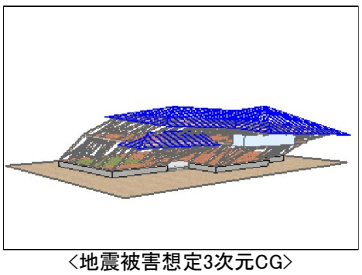
地形	対策	選択	注意事項
平坦・普通		●	特になし
がけ地・急斜面	コンクリート擁壁		
	石積		
	特別な対策を行っていない		

基礎形式	対策	選択	注意事項
鉄筋コンクリート基礎	健全		アンカーボルト、引き抜き金物が十分な性能を発揮できない場合があります。こうした箇所には補強が必要です。
	ひび割れが生じている		
無筋コンクリート基礎	健全		
	軽微なひび割れが生じている	●	
	ひび割れが生じている		
玉石基礎	足固め+鉄筋コンクリート底盤緊結		
	足固めのみまたは足固め無し		
その他(ブロック基礎等)			

上部構造評点 = 保有耐力(edQu) / 必要耐力(Qr)

階	方向	壁の耐力 Qu (kN)	配置低減係数 eKfl	劣化度低減係数 dK	保有耐力 edQu ※ (kN)	必要耐力 Qr (kN)	評点 edQu/Qr	グラフ 0.7 1.0 1.5
2	X	33.24	1.000	0.70	23.26	43.60	0.53	
	Y	32.99	1.000		23.09		0.52	
1	X	65.77	1.000		46.03	76.02	0.60	
	Y	81.32	0.968		55.10		0.72	

※ edQu = Qu * eKfl * dK



<地震被害想定3次元CG>

総合評価 (建築基準法の想定する大地震動での倒壊の可能性)

上部構造評点のうち最小の値	評点	判定
0.52	1.5以上	◎倒壊しない
	1.0以上～1.5未満	○一応倒壊しない
	0.7以上～1.0未満	△倒壊する可能性がある
	0.7未満	×倒壊する可能性が高い

<その他注意事項>

特になし

一般診断法
現状

2. 上部構造評点

日付:2017年02月06日 9:31:05
建物コード:000000
財来一郎(在来軸組構法)

上部構造評点 = 保有耐力(edQu) ／ 必要耐力(Qr)

階	方向	壁の耐力 Qu (kN)	配置低減係数 eKfl	劣化度低減係数 dK	保有耐力 edQu =Qu*eKfl*dK (kN)	必要耐力 Qr (kN)	評点 edQu/Qr	グラフ (0.7 1.0 1.5)	判定
2	X	33.24	1.000	0.70	23.26	43.60	0.53		× 倒壊する可能性が高い
	Y	32.99	1.000		23.09		0.52		× 倒壊する可能性が高い
1	X	65.77	1.000		46.03	76.02	0.60		× 倒壊する可能性が高い
	Y	81.32	0.968		55.10		0.72		△ 倒壊する可能性がある

必要耐力(Qr)

(各階の床面積比を考慮した方法)

階	① 床面積 (㎡)	×	② 床面積あたり必要耐力 (kN/㎡)	+	③ 積雪用必要耐力	)×	④ 地震地域係数 Z	×	⑤ 軟弱地盤割増	×	⑥ 形状割増	×	⑦ 混構造割増	×	⑧ 必要耐力割増	=	必要耐力 Qr (kN)
2	77.84	×(	0.56	+	0.00	)×	1.00	×	1.00	×	1.00	×	1.00	×	1.00	=	43.60
1	89.43		0.85								1.00				1.00		76.02

①【床面積】 (㎡)
②【床面積あたり必要耐力】(kN/㎡)･･･建物の階数別 建物の重さ別 (軽い建物、重い建物、非常に重い建物)
③【積雪用必要耐力】 多雪区域では、積雪深により、積雪1mのとき0.26(kN/㎡)、積雪2mのとき0.52(kN/㎡)を加算する。
④【地震地域係数Z】 令第88条に規定する地震地域係数(1.00,0.90,0.80,0.70より選択)多くの地域が1.00
⑤【軟弱地盤割増】 地盤が著しく軟弱と思われる敷地の場合は、【必要耐力】を1.5倍する。
⑥【形状割増】 いずれかの階の短辺の長さが6.0m未満の場合に、その階を除く、下の階の必要耐力を割増する。
⑦【混構造割増】 2階建てにおいて、1階部分が鉄骨造または鉄筋コンクリート造の場合は、【必要耐力】を1.2倍する。
⑧【必要耐力割増】診断者の判断により荷重や床面積を割増して考慮するための係数。

保有耐力(edQu) = 壁の耐力(Qu) × 配置(eKfl) × 劣化度(dK)

壁の耐力(Qu)

階	方向	無開口壁の耐力 Qw (kN)	+	その他の耐震要素の耐力 Qe(kN) 開口壁の耐力	=	壁の耐力 Qu Qu=Qw+Qe (kN)
2	X	25.64	+	7.60	=	33.24
	Y	27.83		5.16		32.99
1	X	58.57		7.20		65.77
	Y	76.70		4.62		81.32

無開口壁の耐力Qw 「壁基準耐力Fw」「壁長L」「柱接合部による低減係数Kj」の積の総和
･･･詳細は、「3. 壁の耐力Qw明細表」参照のこと

Qw=Σ(Fw*L*Kj)
Fw:壁基準耐力(kN/m)
間仕切壁、外壁の仕様別(下地材、筋かい、面材等)の基準耐力。筋かい・壁下地材両面の値の和とする。
いずれかの面の壁仕様が不明(耐力有)の場合、Fwは合計と2.00(kN/m)のうち高い方として計算。
L:壁長(m) 無開口壁の長さのみ。筋かいにおいては、90cm以上を有効とする。面材においては、60cm以上を有効とする。
Kj:柱接合部による低減係数(1.0～0.2)
壁端柱の柱頭・柱脚の種類により低減する。(但し、基準耐力、基礎の種類別)
接合部Ⅰ･･･平12建告1460号に適合する仕様 接合部Ⅱ･･･羽子板ボルト、山形プレートVP、かど金物
接合部Ⅲ･･･ほぞ差し、釘打ち、かすがい等(両脇に通し柱) 接合部Ⅳ･･･ほぞ差し、釘打ち、かすがい等
基礎仕様による低減 (上記に含む) (基礎Ⅰ･･･鉄筋布基礎、ベタ基礎 基礎Ⅱ･･･健全でない基礎 基礎Ⅲ･･･その他)

その他の耐震要素の耐力Qe
Qe=Σ(Fw・Lw)
Fw:窓型開口の場合 0.6[kN/m] 掃き出し開口の場合 0.3[kN/m]
Lw:開口壁長[m] ※連続する開口の壁長の上限は3.0m

配置(eKfl) 耐力要素の配置等による低減係数･･･詳細は、「6. 偏心率計算表」を参照のこと
平面四分割法により配置のバランスを算定し、状況により低減する。床仕様により 、さらに低減される場合あり。
通常値 1.0 配置が不適切な場合 0.4～1.0

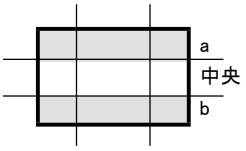
劣化度(dK) 劣化度による低減係数･･･詳細は、「8. 劣化度による低減係数dK」を参照のこと
劣化の状況により保有耐力を低減する。劣化無し:1.0 劣化あり:1.0～0.7 0.7未満となった場合は、0.7とする。

ホームズ君耐震診断Pro Ver.4.1.1.7（2012年改訂版）

一般診断法
現状

3. 壁の耐力明細表（1階X方向）

日付：2017年02月06日 9:31:05
建物コード：000000
財来一郎(在来軸組構法)



位置	柱1	柱2	壁の仕様 壁面1	基準耐力	軸組	低減係数	基準耐力	土塗り壁	基準耐力	壁面2	基準耐力	壁基準耐力 (kN/m) Fw	壁の長さ (m) L	基礎形式	接合部仕様	接合低減係数 Kj	壁の耐力 (kN) Qwi
桁行	1	2	木ずり下地ﾓﾙﾀﾙ塗壁	2.20	／筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	5.60	0.91	Ⅱ	Ⅳ	0.67	3.41
(a)	2	3	木ずり下地ﾓﾙﾀﾙ塗壁	2.20	／筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	5.60	0.91	Ⅱ	Ⅳ	0.67	3.41
	3	4	木ずり下地ﾓﾙﾀﾙ塗壁	2.20						石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	3.70	1.82	Ⅱ	Ⅳ	0.76	5.11
	6	7	木ずり下地ﾓﾙﾀﾙ塗壁	2.20	／筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	5.60	0.91	Ⅱ	Ⅳ	0.67	3.41
	9	10	木ずり下地ﾓﾙﾀﾙ塗壁	2.20	／筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	5.60	0.91	Ⅱ	Ⅳ	0.67	3.41
	11	12	木ずり下地ﾓﾙﾀﾙ塗壁	2.20	／筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	5.60	0.91	Ⅱ	Ⅳ	0.67	3.41
	20	21	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	／筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	4.90	1.82	Ⅱ	Ⅳ	0.70	6.24
	21	22	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50						石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	3.00	0.91	Ⅱ	Ⅳ	0.80	2.18
													桁行(a)耐力 Qwa				30.58
桁行	31	32	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	／筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	4.90	1.82	Ⅱ	Ⅳ	0.70	6.24
(中央)	32	33	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	／筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	4.90	0.91	Ⅱ	Ⅳ	0.70	3.12
	33	34	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	／筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	4.90	0.91	Ⅱ	Ⅳ	0.70	3.12
	35	36	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	／筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	4.90	0.91	Ⅱ	Ⅳ	0.70	3.12
	38	39	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	／筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	4.90	0.91	Ⅱ	Ⅳ	0.70	3.12
	43	44	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	／筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			木ずり下地ﾓﾙﾀﾙ塗壁	2.20	5.60	0.91	Ⅱ	Ⅳ	*0.44	2.24
													桁行(中央)耐力 Qwc				20.96
桁行	48	49	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50						木ずり下地ﾓﾙﾀﾙ塗壁	2.20	3.70	0.91	Ⅱ	Ⅳ	0.76	2.55
(b)	51	52	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	／筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			木ずり下地ﾓﾙﾀﾙ塗壁	2.20	5.60	0.91	Ⅱ	Ⅳ	*0.44	2.24
	53	54	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	／筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			木ずり下地ﾓﾙﾀﾙ塗壁	2.20	5.60	0.91	Ⅱ	Ⅳ	*0.44	2.24
													桁行(b)耐力 Qwb				7.03

1階X方向合計 Qw	58.57

壁の耐力(kN)　Qwi= Fw×L×Kj　壁基準耐力(kN/m)　Fw　= 壁面１耐力＋軸組耐力＋土塗り壁耐力＋壁面２耐力
壁の長さ(m)　L　：無開口壁のみ　接合低減係数　Kj　：基礎形式と接合部仕様、壁基準耐力により決まります

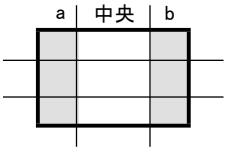
壁の仕様が網掛けで塗られている材種は壁材種設定により入力者が任意に追加した材種
壁の仕様が太線で囲まれている材種は補強計画で追加、変更された材種
壁の仕様に△が付いている面、土塗壁、筋かいはそれぞれ長さ60cm未満の面、土塗壁および長さ90cm未満の筋かい（基準耐力は0となる）
壁の仕様に/が付いている軸組はシングルの筋かい、Xが付いている軸組はダブルの筋かい
壁の仕様の中の「非」は非耐力壁仕様
基準耐力に#が付いている材種は基準耐力に補正が掛かっている材種
壁基準耐力に△が付いている壁は端部に柱がないために耐力0と扱われる壁
壁基準耐力に▲が付いている壁は開口部との間に柱がない無開口部（開口部として扱われる）
壁基準耐力に■が付いている壁は開口部に挟まれた耐力評価できない無開口部（開口部として扱われる）
接合低減係数に*が付いている壁は、直上に他階が乗っていないので平屋用の接合低減係数が使用されている壁

ホームズ君耐震診断Pro Ver.4.1.1.7（2012年改訂版）

一般診断法
現状

3. 壁の耐力明細表（1階Y方向）

日付：2017年02月06日 9:31:05
建物コード：000000
財来一郎(在来軸組構法)



位置	柱1	柱2	壁の仕様 壁面1	基準耐力	軸組	低減係数	基準耐力	土塗り壁	基準耐力	壁面2	基準耐力	壁基準耐力 (kN/m) Fw	壁の長さ (m) L	基礎形式	接合部仕様	接合低減係数 Kj	壁の耐力 (kN) Qwi
梁間	1	13	木ずり下地ﾓﾙﾀﾙ塗壁	2.20	／筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	5.60	0.91	Ⅱ	Ⅳ	0.67	3.41
(a)	13	18	木ずり下地ﾓﾙﾀﾙ塗壁	2.20	／筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	5.60	0.91	Ⅱ	Ⅳ	0.67	3.41
	28	37	木ずり下地ﾓﾙﾀﾙ塗壁	2.20	／筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	5.60	0.91	Ⅱ	Ⅳ	0.67	3.41
	37	42	木ずり下地ﾓﾙﾀﾙ塗壁	2.20						石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	3.70	1.36	Ⅱ	Ⅳ	*0.56	2.81
	3	14	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	／筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	4.90	0.91	Ⅱ	Ⅳ	0.70	3.12
													梁間(a)耐力 Qwa				16.16
梁間	4	15	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	／筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	4.90	0.91	Ⅱ	Ⅳ	0.70	3.12
(中央)	15	19	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	／筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	4.90	0.91	Ⅱ	Ⅳ	0.70	3.12
	29	39	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	／筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	4.90	0.91	Ⅱ	Ⅳ	0.70	3.12
	39	44	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50						石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	3.00	1.36	Ⅱ	Ⅳ	*0.60	2.44
	5	20	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	／筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	4.90	1.82	Ⅱ	Ⅳ	0.70	6.24
	30	40	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	／筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	4.90	0.91	Ⅱ	Ⅳ	0.70	3.12
	40	45	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	／筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	4.90	1.36	Ⅱ	Ⅳ	0.70	4.66
	45	47	木ずり下地ﾓﾙﾀﾙ塗壁	2.20						石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	3.70	1.36	Ⅱ	Ⅳ	0.76	3.82
	47	51	木ずり下地ﾓﾙﾀﾙ塗壁	2.20	／筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	5.60	0.91	Ⅱ	Ⅳ	*0.44	2.24
	6	16	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50						石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	3.00	0.91	Ⅱ	Ⅳ	0.80	2.18
	8	23	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50						石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	3.00	1.82	Ⅱ	Ⅳ	0.80	4.36
													梁間(中央)耐力 Qwc				38.42
梁間	9	24	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	／筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	4.90	1.82	Ⅱ	Ⅳ	0.70	6.24
(b)	48	54	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	／筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			木ずり下地ﾓﾙﾀﾙ塗壁	2.20	5.60	0.91	Ⅱ	Ⅳ	*0.44	2.24
	12	17	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	／筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			木ずり下地ﾓﾙﾀﾙ塗壁	2.20	5.60	0.91	Ⅱ	Ⅳ	0.67	3.41
	27	36	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	／筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			木ずり下地ﾓﾙﾀﾙ塗壁	2.20	5.60	0.91	Ⅱ	Ⅳ	0.67	3.41
	36	41	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	／筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			木ずり下地ﾓﾙﾀﾙ塗壁	2.20	5.60	0.91	Ⅱ	Ⅳ	0.67	3.41
	46	50	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	／筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			木ずり下地ﾓﾙﾀﾙ塗壁	2.20	5.60	0.91	Ⅱ	Ⅳ	0.67	3.41
													梁間(b)耐力 Qwb				22.12

1階Y方向合計 Qw	76.70

壁の耐力(kN)　Qwi= Fw×L×Kj　壁基準耐力(kN/m)　Fw　= 壁面１耐力＋軸組耐力＋土塗り壁耐力＋壁面２耐力
壁の長さ(m)　L　：無開口壁のみ　接合低減係数　Kj　：基礎形式と接合部仕様、壁基準耐力により決まります

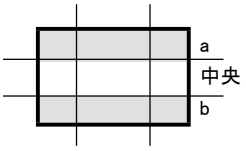
壁の仕様が網掛けで塗られている材種は壁材種設定により入力者が任意に追加した材種
壁の仕様が太線で囲まれている材種は補強計画で追加、変更された材種
壁の仕様に△が付いている面、土塗壁、筋かいはそれぞれ長さ60cm未満の面、土塗壁および長さ90cm未満の筋かい（基準耐力は0となる）
壁の仕様に/が付いている軸組はシングルの筋かい、Xが付いている軸組はダブルの筋かい
壁の仕様の中の「非」は非耐力壁仕様
基準耐力に#が付いている材種は基準耐力に補正が掛かっている材種
壁基準耐力に△が付いている壁は端部に柱がないために耐力0と扱われる壁
壁基準耐力に▲が付いている壁は開口部との間に柱がない無開口部（開口部として扱われる）
壁基準耐力に■が付いている壁は開口部に挟まれた耐力評価できない無開口部（開口部として扱われる）
接合低減係数に*が付いている壁は、直上に他階が乗っていないので平屋用の接合低減係数が使用されている壁

ホームズ君耐震診断Pro Ver.4.1.1.7(2012年改訂版)

一般診断法
現状

3. 壁の耐力明細表(2階X方向)

日付:2017年02月06日 9:31:05
建物コード:000000
財来一郎(在来軸組構法)



位置	柱1	柱2	壁の仕様 壁面1	基準耐力	軸組	低減係数	基準耐力	土塗り壁	基準耐力	壁面2	基準耐力	壁基準耐力 (kN/m) Fw	壁の長さ (m) L	基礎形式	接合部仕様	接合低減係数 Kj	壁の耐力 (kN) Qwi
桁行	1	2	木ずり下地ﾓﾙﾀﾙ塗壁	2.20	／筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	5.60	0.91	Ⅰ	Ⅳ	0.23	1.17
(a)	2	3	木ずり下地ﾓﾙﾀﾙ塗壁	2.20	／筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	5.60	0.91	Ⅰ	Ⅳ	0.23	1.17
	3	4	木ずり下地ﾓﾙﾀﾙ塗壁	2.20						石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	3.70	0.91	Ⅰ	Ⅳ	0.31	1.04
	4	5	木ずり下地ﾓﾙﾀﾙ塗壁	2.20						石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	3.70	0.91	Ⅰ	Ⅳ	0.31	1.04
	7	8	木ずり下地ﾓﾙﾀﾙ塗壁	2.20						石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	3.70	1.82	Ⅰ	Ⅳ	0.31	2.08
	8	9	木ずり下地ﾓﾙﾀﾙ塗壁	2.20	／筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	5.60	0.91	Ⅰ	Ⅳ	0.23	1.17
	11	12	木ずり下地ﾓﾙﾀﾙ塗壁	2.20	／筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	5.60	0.91	Ⅰ	Ⅳ	0.23	1.17
	19	20	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50						石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	3.00	2.73	Ⅰ	Ⅳ	0.35	2.86
	20	21	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50						石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	3.00	0.91	Ⅰ	Ⅳ	0.35	0.95
													桁行(a)耐力 Qwa				12.65
桁行	30	31	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50						石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	3.00	1.36	Ⅰ	Ⅳ	0.35	1.42
(中央)	31	32	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50						石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	3.00	1.36	Ⅰ	Ⅳ	0.35	1.42
	33	34	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	／筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	4.90	0.91	Ⅰ	Ⅳ	0.25	1.11
	34	35	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50						石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	3.00	0.91	Ⅰ	Ⅳ	0.35	0.95
	37	38	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50						木ずり下地ﾓﾙﾀﾙ塗壁	2.20	3.70	0.91	Ⅰ	Ⅳ	0.31	1.04
	39	40	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	／筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			木ずり下地ﾓﾙﾀﾙ塗壁	2.20	5.60	0.91	Ⅰ	Ⅳ	0.23	1.17
	40	41	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50						木ずり下地ﾓﾙﾀﾙ塗壁	2.20	3.70	0.45	Ⅰ	Ⅳ	0.31	0.51
	42	43	△石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	0.00						△木ずり下地ﾓﾙﾀﾙ塗壁	0.00	0.00	0.45	Ⅰ	Ⅳ	1.00	0.00
													桁行(中央)耐力 Qwc				7.62
桁行	45	46	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50						石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	3.00	0.91	Ⅰ	Ⅳ	0.35	0.95
(b)	49	50	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	／筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			木ずり下地ﾓﾙﾀﾙ塗壁	2.20	5.60	0.91	Ⅰ	Ⅳ	0.23	1.17
	51	52	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50						木ずり下地ﾓﾙﾀﾙ塗壁	2.20	3.70	0.91	Ⅰ	Ⅳ	0.31	1.04
	52	53	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50						木ずり下地ﾓﾙﾀﾙ塗壁	2.20	3.70	0.91	Ⅰ	Ⅳ	0.31	1.04
	53	54	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	／筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			木ずり下地ﾓﾙﾀﾙ塗壁	2.20	5.60	0.91	Ⅰ	Ⅳ	0.23	1.17
													桁行(b)耐力 Qwb				5.37

2階X方向合計 Qw	25.64

壁の耐力(kN)　Qwi= Fw×L×Kj　壁基準耐力(kN/m)　Fw = 壁面１耐力＋軸組耐力＋土塗り壁耐力＋壁面２耐力
壁の長さ(m)　L ：無開口壁のみ　接合低減係数　Kj ：基礎形式と接合部仕様、壁基準耐力により決まります

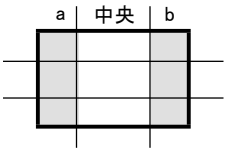
壁の仕様が網掛けで塗られている材種は壁材種設定により入力者が任意に追加した材種
壁の仕様が太線で囲まれている材種は補強計画で追加、変更された材種
壁の仕様に△が付いている面、土塗壁、筋かいはそれぞれ長さ60cm未満の面、土塗壁および長さ90cm未満の筋かい（基準耐力は0となる）
壁の仕様に/が付いている軸組はシングルの筋かい、Xが付いている軸組はダブルの筋かい
壁の仕様の中の「非」は非耐力壁仕様
基準耐力に#が付いている材種は基準耐力に補正が掛かっている材種
壁基準耐力に△が付いている壁は端部に柱がないために耐力0と扱われる壁
壁基準耐力に▲が付いている壁は開口部との間に柱がない無開口部（開口部として扱われる）
壁基準耐力に■が付いている壁は開口部に挟まれた耐力評価できない無開口部（開口部として扱われる）
接合低減係数に*が付いている壁は、直上に他階が乗っていないので平屋用の接合低減係数が使用されている壁

ホームズ君耐震診断Pro Ver.4.1.1.7（2012年改訂版）

一般診断法
現状

3. 壁の耐力明細表（2階Y方向）

日付：2017年02月06日 9:31:05
建物コード：000000
財来一郎(在来軸組構法)



位置	柱1	柱2	壁の仕様 壁面1	基準耐力	軸組	低減係数	基準耐力	土塗り壁	基準耐力	壁面2	基準耐力	壁基準耐力 (kN/m) Fw	壁の長さ (m) L	基礎形式	接合部仕様	接合低減係数 Kj	壁の耐力 (kN) Qwi
梁間	1	13	木ずり下地ﾓﾙﾀﾙ塗壁	2.20	／筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	5.60	0.91	Ⅰ	Ⅳ	0.23	1.17
(a)	13	18	木ずり下地ﾓﾙﾀﾙ塗壁	2.20	／筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	5.60	0.91	Ⅰ	Ⅳ	0.23	1.17
	28	37	木ずり下地ﾓﾙﾀﾙ塗壁	2.20	／筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	5.60	0.91	Ⅰ	Ⅳ	0.23	1.17
	3	14	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	／筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	4.90	0.91	Ⅰ	Ⅳ	0.25	1.11
													梁間(a)耐力 Qwa				4.62
梁間	5	15	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	／筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	4.90	0.91	Ⅰ	Ⅳ	0.25	1.11
(中央)	15	23	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50						石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	3.00	1.82	Ⅰ	Ⅳ	0.35	1.91
	29	40	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50						石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	3.00	0.91	Ⅰ	Ⅳ	0.35	0.95
	6	16	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50						石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	3.00	0.91	Ⅰ	Ⅳ	0.35	0.95
	19	24	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50						石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	3.00	0.91	Ⅰ	Ⅳ	0.35	0.95
	30	43	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50						石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	3.00	0.91	Ⅰ	Ⅳ	0.35	0.95
	43	47	木ずり下地ﾓﾙﾀﾙ塗壁	2.20						石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	3.70	1.82	Ⅰ	Ⅳ	0.31	2.08
	47	49	木ずり下地ﾓﾙﾀﾙ塗壁	2.20						石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	3.70	0.91	Ⅰ	Ⅳ	0.31	1.04
	9	21	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50						石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	3.00	1.82	Ⅰ	Ⅳ	0.35	1.91
	33	45	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50						石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	3.00	1.82	Ⅰ	Ⅳ	0.35	1.91
													梁間(中央)耐力 Qwc				13.76
梁間	10	22	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50						石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	3.00	1.82	Ⅰ	Ⅳ	0.35	1.91
(b)	22	26	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50						石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	3.00	0.91	Ⅰ	Ⅳ	0.35	0.95
	46	53	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50						石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	3.00	1.82	Ⅰ	Ⅳ	0.35	1.91
	12	17	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	／筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			木ずり下地ﾓﾙﾀﾙ塗壁	2.20	5.60	0.91	Ⅰ	Ⅳ	0.23	1.17
	27	36	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	／筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			木ずり下地ﾓﾙﾀﾙ塗壁	2.20	5.60	0.91	Ⅰ	Ⅳ	0.23	1.17
	36	44	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	／筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			木ずり下地ﾓﾙﾀﾙ塗壁	2.20	5.60	0.91	Ⅰ	Ⅳ	0.23	1.17
	48	55	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50	／筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			木ずり下地ﾓﾙﾀﾙ塗壁	2.20	5.60	0.91	Ⅰ	Ⅳ	0.23	1.17
													梁間(b)耐力 Qwb				9.45

2階Y方向合計 Qw	27.83

壁の耐力(kN)　Qwi= Fw×L×Kj　壁基準耐力(kN/m)　Fw　= 壁面１耐力＋軸組耐力＋土塗り壁耐力＋壁面２耐力
壁の長さ(m)　L　：無開口壁のみ　接合低減係数　Kj　：基礎形式と接合部仕様、壁基準耐力により決まります

壁の仕様が網掛けで塗られている材種は壁材種設定により入力者が任意に追加した材種
壁の仕様が太線で囲まれている材種は補強計画で追加、変更された材種
壁の仕様に△が付いている面、土塗壁、筋かいはそれぞれ長さ60cm未満の面、土塗壁および長さ90cm未満の筋かい（基準耐力は0となる）
壁の仕様に/が付いている軸組はシングルの筋かい、Xが付いている軸組はダブルの筋かい
壁の仕様の中の「非」は非耐力壁仕様
基準耐力に#が付いている材種は基準耐力に補正が掛かっている材種
壁基準耐力に△が付いている壁は端部に柱がないために耐力0と扱われる壁
壁基準耐力に▲が付いている壁は開口部との間に柱がない無開口部（開口部として扱われる）
壁基準耐力に■が付いている壁は開口部に挟まれた耐力評価できない無開口部（開口部として扱われる）
接合低減係数に*が付いている壁は、直上に他階が乗っていないので平屋用の接合低減係数が使用されている壁

一般診断法
現状

3. 壁の耐力明細表(壁材種一覧)

日付:2017年02月06日 9:31:05
建物コード:000000
財来一郎(在来軸組構法)

使用壁材一覧

コード	材種	基準耐力 (kN/m)
103'	筋かい(30×90)(釘打ち)	1.90
307	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(非大-GNF40@200川)	1.50
417	木ずり下地ﾓﾙﾀﾙ塗壁	2.20

※ 壁材種設定により入力者が任意に追加した材種は網掛けで塗られて表示。
※ 筋かい耐力壁はシングルの値を表示。ダブルの場合はシングルを2倍にした値を適用。

一般診断法
現状

3. 壁の耐力明細表(係数表)

日付:2017年02月06日 9:31:05
建物コード:000000
財来一郎(在来軸組構法)

係数表

筋かい接合低減係数表

筋かい金物等	筋かいの要素基準耐力(kN/m)		
	3.0未満	3.0～5.0	5.0以上
①所定の金物	1.0	1.0	1.0
②2.0倍用金物以上	1.0	0.9	0.8
③1.5倍用金物	0.9	0.8	0.7
④釘打ち(2-N75程度)以下	0.8	0.7	0.6

胴縁下地壁　耐力・剛性　修正

大壁で胴縁下地の壁面の修正基準耐力は以下とする。

基準耐力 (kN/m)	修正基準耐力 (kN/m)	
	(1) 胴縁をN75@200以下	(2) (1)の仕様以外
2以下	基準耐力×1.0	基準耐力×3/4
2超 4以下	基準耐力×(- $\frac{1}{8}$ ・基準耐力＋1.25)	1.5
4超	3	

柱頭・柱脚接合部の種類による耐力低減係数

壁基準耐力が表に掲げた数値の中間の場合、その上下の壁基準耐力の低減係数から直線補間して算出する

2階建ての2階、3階建ての3階

壁基準耐力(kN/m)		2.0	3.0	5.0	7.0
接合部の仕様	Ⅰ	1.0	1.0	1.0	1.0
	Ⅱ	1.0	0.8	0.65	0.5
	Ⅲ	0.7	0.6	0.45	0.35
	Ⅳ	0.7	0.35	0.25	0.2

2階建ての1階、3階建ての1階及び3階建ての2階

壁基準耐力(kN/m)		2.0			3.0			5.0			7.0		
	基礎の仕様	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
接合部の仕様	Ⅰ	1.0	1.0	1.0	1.0	0.9	0.8	1.0	0.85	0.7	1.0	0.8	0.6
	Ⅱ	1.0	1.0	1.0	1.0	0.9	0.8	0.9	0.8	0.7	0.8	0.7	0.6
	Ⅲ	1.0	1.0	1.0	0.8	0.8	0.8	0.7	0.7	0.7	0.6	0.6	0.6
	Ⅳ	1.0	1.0	1.0	0.8	0.8	0.8	0.7	0.7	0.7	0.6	0.6	0.6

3階建ての2階の場合は、基礎の種類にかかわらず基礎仕様Ⅰの欄を使用する

平屋建て(2階建ての下屋部分を含む)

壁基準耐力(kN/m)		2.0			3.0			5.0			7.0		
	基礎の仕様	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
接合部の仕様	Ⅰ	1.0	0.85	0.7	1.0	0.85	0.7	1.0	0.8	0.7	1.0	0.8	0.7
	Ⅱ	1.0	0.85	0.7	0.9	0.75	0.7	0.85	0.7	0.65	0.8	0.7	0.6
	Ⅳ	0.7	0.7	0.7	0.6	0.6	0.6	0.5	0.5	0.5	0.3	0.3	0.3

総合重心を求める際の係数表

建物の重さ	α	β
軽い建物	2.15	1.43
重い建物	2.60	2.00
非常に重い建物	2.85	3.23

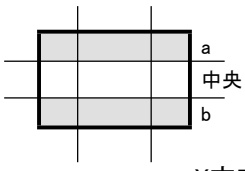
耐力要素の配置による低減係数(偏心率)

床仕様	偏心率				
	Re＜0.15	0.15≦Re＜0.30	0.30≦Re＜0.45	0.45≦Re＜0.60	0.60≦Re
Ⅰ	1.00	1/(3.33Re+0.5)	(3.3-Re)/(3*(3.33Re+0.5))	(3.3-Re)/6	0.450
Ⅱ			(2.3-Re)/(2*(3.33Re+0.5))	(2.3-Re)/4	0.425
Ⅲ			(3.6-2Re)/(3*(3.33Re+0.5))	(3.6-2Re)/6	0.400

一般診断法
現状

4. 開口壁の耐力明細表(1階X方向)

日付:2017年02月06日 9:31:05
建物コード:000000
財来一郎(在来軸組構法)



X方向　桁行方向

位置(桁行)	柱1	柱2	開口種類	壁基準耐力(kN/m)	壁の長さ(m)	壁の耐力(kN)
a	4	5	窓型	0.60	▲1.50	0.90
	5	6	窓型	0.60	▲1.50	0.90
	7	8	掃き出し	0.30	0.91	0.27
	8	9	窓型	◆0.30	0.91	0.27
	10	11	窓型	0.60	0.91	0.54
	13	14	掃き出し	◇0.00	▲1.50	0.00
	14	15	掃き出し	◇0.00	▲1.50	0.00
	22	23	掃き出し	0.30	0.91	0.27
	23	24	掃き出し	0.30	0.91	0.27
					合計 Qea	3.42
中央	30	31	掃き出し	0.30	0.91	0.27
	37	38	掃き出し	0.30	2.73	0.81
	42	43	掃き出し	0.30	2.73	0.81
	44	45	掃き出し	0.30	1.82	0.54
					合計 Qec	2.43
b	49	50	掃き出し	0.30	1.82	0.54
	52	53	掃き出し	0.30	2.73	0.81
					合計 Qeb	1.35

1階X方向合計 Qe	7.20

Qe = Qea + Qeb + Qec

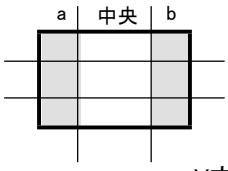
【壁基準耐力の記号について】
- ▽　：端部に柱が無いため耐力0と扱われる壁
- ■　：開口壁との間に柱が無い無開口壁（開口壁として扱われる）
- □　：開口部に挟まれた耐力を評価できない無開口壁（開口壁として扱われる）
- ◆　：掃き出し開口と連続のため掃き出しの耐力が使用される窓型開口
- ◇　：耐力を持つ無開口壁に接していないために耐力を算定できない開口壁
- ×　：壁材種の基準耐力0のため耐力を算定できない開口壁

【壁の長さの記号について】
- ▲　：開口の連続長3.0m超のため3.0mとなるように低減

一般診断法
現状

4. 開口壁の耐力明細表(1階Y方向)

日付:2017年02月06日 9:31:05
建物コード:000000
財来一郎(在来軸組構法)



Y方向 梁間方向

位置(梁間)	柱1	柱2	開口種類	壁基準耐力(kN/m)	壁の長さ(m)	壁の耐力(kN)
a	18	28	窓型	0.60	1.82	1.09
	38	43	掃き出し	◇0.00	1.36	0.00
					合計 Qea	1.09
中央	16	21	掃き出し	0.30	0.91	0.27
	19	29	掃き出し	0.30	1.82	0.54
	22	26	掃き出し	◇0.00	0.91	0.00
					合計 Qec	0.81
b	17	27	窓型	0.60	1.82	1.09
	24	34	掃き出し	0.30	1.82	0.54
	41	46	窓型	0.60	1.82	1.09
					合計 Qeb	2.72

1階Y方向合計 Qe	4.62

Qe = Qea + Qeb + Qec

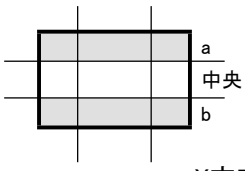
【壁基準耐力の記号について】
- ▽ ：端部に柱が無いため耐力0と扱われる壁
- ■ ：開口壁との間に柱が無い無開口壁（開口壁として扱われる）
- □ ：開口部に挟まれた耐力を評価できない無開口壁（開口壁として扱われる）
- ◆ ：掃き出し開口と連続のため掃き出しの耐力が使用される窓型開口
- ◇ ：耐力を持つ無開口壁に接していないために耐力を算定できない開口壁
- × ：壁材種の基準耐力0のため耐力を算定できない開口壁

【壁の長さの記号について】
- ▲ ：開口の連続長3.0m超のため3.0mとなるように低減

一般診断法
現状

4. 開口壁の耐力明細表(2階X方向)

日付:2017年02月06日 9:31:05
建物コード:000000
財来一郎(在来軸組構法)



X方向　桁行方向

位置(桁行)	柱1	柱2	開口種類	壁基準耐力(kN/m)	壁の長さ(m)	壁の耐力(kN)
a	5	6	窓型	0.60	1.82	1.09
	6	7	窓型	0.60	0.91	0.54
	9	10	窓型	0.60	0.91	0.54
	10	11	窓型	0.60	1.82	1.09
	13	14	掃き出し	◇0.00	▲1.50	0.00
	14	15	掃き出し	◇0.00	▲1.50	0.00
	21	22	掃き出し	0.30	0.91	0.27
					合計 Qea	3.53
中央	32	33	掃き出し	0.30	0.91	0.27
	35	36	掃き出し	0.30	1.82	0.54
	38	39	窓型	0.60	1.82	1.09
	41	42	窓型	0.60	0.91	0.54
					合計 Qec	2.44
b	50	51	掃き出し	0.30	1.82	0.54
	54	55	窓型	0.60	1.82	1.09
					合計 Qeb	1.63

【壁基準耐力の記号について】
- ▽　：端部に柱が無いため耐力0と扱われる壁
- ■　：開口壁との間に柱が無い無開口壁（開口壁として扱われる）
- □　：開口部に挟まれた耐力を評価できない無開口壁（開口壁として扱われる）
- ◆　：掃き出し開口と連続のため掃き出しの耐力が使用される窓型開口
- ◇　：耐力を持つ無開口壁に接していないために耐力を算定できない開口壁
- ×　：壁材種の基準耐力0のため耐力を算定できない開口壁

【壁の長さの記号について】
- ▲　：開口の連続長3.0m超のため3.0mとなるように低減

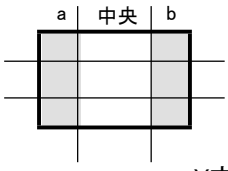
2階X方向合計 Qe	7.60

Qe = Qea + Qeb + Qec

一般診断法
現状

4. 開口壁の耐力明細表(2階Y方向)

日付:2017年02月06日 9:31:05
建物コード:000000
財来一郎(在来軸組構法)



Y方向 梁間方向

位置(梁間)	柱1	柱2	開口種類	壁基準耐力(kN/m)	壁の長さ(m)	壁の耐力(kN)
a	18	28	窓型	0.60	1.82	1.09
					合計 Qea	1.09
中央	16	19	掃き出し	0.30	0.91	0.27
	23	29	掃き出し	0.30	0.91	0.27
	45	52	掃き出し	0.30	1.82	0.54
					合計 Qec	1.08
b	17	27	窓型	0.60	1.82	1.09
	26	34	掃き出し	0.30	0.91	0.27
	34	46	掃き出し	0.30	1.82	0.54
	44	48	窓型	0.60	1.82	1.09
					合計 Qeb	2.99

【壁基準耐力の記号について】
- ▽ ：端部に柱が無いため耐力0と扱われる壁
- ■ ：開口壁との間に柱が無い無開口壁（開口壁として扱われる）
- □ ：開口部に挟まれた耐力を評価できない無開口壁（開口壁として扱われる）
- ◆ ：掃き出し開口と連続のため掃き出しの耐力が使用される窓型開口
- ◇ ：耐力を持つ無開口壁に接していないために耐力を算定できない開口壁
- × ：壁材種の基準耐力0のため耐力を算定できない開口壁

【壁の長さの記号について】
- ▲ ：開口の連続長3.0m超のため3.0mとなるように低減

2階Y方向合計 Qe	5.16

Qe = Qea + Qeb + Qec

一般診断法
現状

6. 偏心率計算表

日付：2017年02月06日 9:31:05
建物コード：000000
財来一郎(在来軸組構法)

要素名	部位別要素名	計算式	計算値
床面積（㎡）	1階床面積	1階外周内部の面積（必要耐力用の面積と異なる場合あり）	89.43
	2階床面積	2階外周内部の面積（必要耐力用の面積と異なる場合あり）	77.84
重心座標	1階重心(X座標)	Σ（分割した三角形の重心X座標×面積）／1階床面積	6.74
	1階重心(Y座標)	Σ（分割した三角形の重心Y座標×面積）／1階床面積	4.61
	2階重心(X座標)	Σ（分割した三角形の重心X座標×面積）／2階床面積	7.07
	2階重心(Y座標)	Σ（分割した三角形の重心Y座標×面積）／2階床面積	4.99
	総合重心(X座標) ※	{β×Σ（1階三角形重心X座標×面積）＋α×Σ（2階三角形重心X座標×面積）}／（β×1階床面積＋α×2階床面積）	6.91
	総合重心(Y座標) ※	{β×Σ（1階三角形重心Y座標×面積）＋α×Σ（2階三角形重心Y座標×面積）}／（β×1階床面積＋α×2階床面積）	4.81
耐震要素（明細－い）	耐震要素（1階X方向）	Σ（1階各要素X方向耐力×要素Y座標）	324.92
	耐震要素（1階Y方向）	Σ（1階各要素Y方向耐力×要素X座標）	472.47
	耐震要素（2階X方向）	Σ（2階各要素X方向耐力×要素Y座標）	135.48
	耐震要素（2階Y方向）	Σ（2階各要素Y方向耐力×要素X座標）	191.23
耐力（明細－あ）	耐力(1階X方向)	Σ（1階各要素X方向耐力）	58.57
	耐力（1階Y方向）	Σ（1階各要素Y方向耐力）	76.70
	耐力（2階X方向）	Σ（2階各要素X方向耐力）	25.64
	耐力（2階Y方向）	Σ（2階各要素Y方向耐力）	27.83
剛心座標	1階剛心(X座標)	耐震要素（1階Y方向）／耐力(1階Y方向)	6.16
	1階剛心(Y座標)	耐震要素（1階X方向）／耐力(1階X方向)	5.55
	2階剛心(X座標)	耐震要素（2階Y方向）／耐力(2階Y方向)	6.87
	2階剛心(Y座標)	耐震要素（2階X方向）／耐力(2階X方向)	5.28
偏心距離（m）	1階偏心距離(X座標)	絶対値(1階剛心(X座標)－総合重心(X座標))	0.75
	1階偏心距離(Y座標)	絶対値(1階剛心(Y座標)－総合重心(Y座標))	0.75
	2階偏心距離(X座標)	絶対値(2階剛心(X座標)－2階重心(X座標))	0.21
	2階偏心距離(Y座標)	絶対値(2階剛心(Y座標)－2階重心(Y座標))	0.30
ねじり剛性（明細－う）	1階ねじり剛性(X方向)	Σ（1階各要素X方向耐力×（要素Y座標－1階剛心（Y座標））^2）	403.87
	1階ねじり剛性(Y方向)	Σ（1階各要素Y方向耐力×（要素X座標－1階剛心（X座標））^2）	1394.94
	1階ねじり剛性合計	1階ねじり剛性(X座標)＋1階ねじり剛性（Y座標）	1798.81
	2階ねじり剛性(X方向)	Σ（2階各要素X方向耐力×（要素Y座標－2階剛心（Y座標））^2）	179.78
	2階ねじり剛性(Y方向)	Σ（2階各要素Y方向耐力×（要素X座標－2階剛心（X座標））^2）	474.44
	2階ねじり剛性合計	2階ねじり剛性(X座標)＋2階ねじり剛性（Y座標）	654.22
弾力半径	1階弾力半径(X方向)	平方根（1階ねじり剛性合計／Σ（1階各要素X方向耐力））	5.54
	1階弾力半径(Y方向)	平方根（1階ねじり剛性合計／Σ（1階各要素Y方向耐力））	4.84
	2階弾力半径(X方向)	平方根（2階ねじり剛性合計／Σ（2階各要素X方向耐力））	5.05
	2階弾力半径(Y方向)	平方根（2階ねじり剛性合計／Σ（2階各要素Y方向耐力））	4.84
偏心率	1階偏心率（X方向）	1階偏心距離(Y座標)／1階弾力半径（X方向）	0.14
	1階偏心率（Y方向）	1階偏心距離(X座標)／1階弾力半径（Y方向）	0.16
	2階偏心率（X方向）	2階偏心距離(Y座標)／2階弾力半径（X方向）	0.06
	2階偏心率（Y方向）	2階偏心距離(X座標)／2階弾力半径（Y方向）	0.05
配置による低減係数 eKfl	1階配置低減係数（X方向）	「3. 壁の耐力明細表（係数表）」参照	1.000
	1階配置低減係数（Y方向）	床仕様：Ⅱ火打ち＋荒板	0.968
	2階配置低減係数（X方向）		1.000
	2階配置低減係数（Y方向）		1.000

※総合重心を求める際の係数表 >> 3. 壁の耐力明細表（係数表）参照

一般診断法
現状

7. 偏心率計算表(明細)

日付:2017年02月06日 9:31:05
建物コード:000000
財来一郎(在来軸組構法)

[1階X方向]

属性	柱1	柱2	A Y座標	B 耐力 Sw	C 耐震要素 (耐力×座標) A＊B	D 剛心Y座標 い／あ	E ねじり剛性 B＊(A－D)^2
壁	1	2	8.19	3.41	27.93	5.55	23.76
壁	2	3	8.19	3.41	27.93	5.55	23.76
壁	3	4	8.19	5.11	41.85	5.55	35.61
壁	6	7	8.19	3.41	27.93	5.55	23.76
壁	9	10	8.19	3.41	27.93	5.55	23.76
壁	11	12	8.19	3.41	27.93	5.55	23.76
壁	20	21	6.37	6.24	39.75	5.55	4.19
壁	21	22	6.37	2.18	13.89	5.55	1.46
壁	31	32	4.55	6.24	28.39	5.55	6.24
壁	32	33	4.55	3.12	14.20	5.55	3.12
壁	33	34	4.55	3.12	14.20	5.55	3.12
壁	35	36	4.55	3.12	14.20	5.55	3.12
壁	38	39	3.64	3.12	11.36	5.55	11.38
壁	43	44	2.28	2.24	5.11	5.55	23.95
壁	48	49	0.91	2.55	2.32	5.55	54.90
壁	51	52	0.00	2.24	0.00	5.55	68.99
壁	53	54	0.00	2.24	0.00	5.55	68.99
				58.57	324.92		403.87
				あ	い		う

一般診断法
現状

7. 偏心率計算表(明細)

日付:2017年02月06日 9:31:05
建物コード:000000
財来一郎(在来軸組構法)

[1階Y方向]

属性	柱1	柱2	A X座標	B 耐力 Sw	C 耐震要素 (耐力×座標) A＊B	D 剛心X座標 い／あ	E ねじり剛性 B＊(A－D)^2
壁	1	13	0.00	3.41	0.00	6.16	129.39
壁	3	14	1.82	3.12	5.68	6.16	58.76
壁	4	15	3.64	3.12	11.36	6.16	19.81
壁	5	20	5.46	6.24	34.07	6.16	3.05
壁	6	16	7.28	2.18	15.87	6.16	2.73
壁	8	23	9.10	4.36	39.68	6.16	37.68
壁	9	24	10.01	6.24	62.46	6.16	92.49
壁	12	17	12.74	3.41	43.44	6.16	147.64
壁	13	18	0.00	3.41	0.00	6.16	129.39
壁	15	19	3.64	3.12	11.36	6.16	19.81
壁	27	36	12.74	3.41	43.44	6.16	147.64
壁	28	37	0.00	3.41	0.00	6.16	129.39
壁	29	39	3.64	3.12	11.36	6.16	19.81
壁	30	40	5.46	3.12	17.04	6.16	1.52
壁	36	41	12.74	3.41	43.44	6.16	147.64
壁	37	42	0.00	2.81	0.00	6.16	106.62
壁	39	44	3.64	2.44	8.88	6.16	15.49
壁	40	45	5.46	4.66	25.44	6.16	2.28
壁	45	47	5.46	3.82	20.86	6.16	1.87
壁	46	50	12.74	3.41	43.44	6.16	147.64
壁	47	51	5.46	2.24	12.23	6.16	1.09
壁	48	54	10.01	2.24	22.42	6.16	33.20
				76.70	472.47		1394.94
				あ	い		う

一般診断法
現状

7. 偏心率計算表(明細)

日付:2017年02月06日 9:31:05
建物コード:000000
財来一郎(在来軸組構法)

[2階X方向]

属性	柱1	柱2	A Y座標	B 耐力 Sw	C 耐震要素 (耐力×座標) A＊B	D 剛心Y座標 い／あ	E ねじり剛性 B＊(A－D)^2
壁	1	2	8.19	1.17	9.58	5.28	9.90
壁	2	3	8.19	1.17	9.58	5.28	9.90
壁	3	4	8.19	1.04	8.52	5.28	8.80
壁	4	5	8.19	1.04	8.52	5.28	8.80
壁	7	8	8.19	2.08	17.04	5.28	17.61
壁	8	9	8.19	1.17	9.58	5.28	9.90
壁	11	12	8.19	1.17	9.58	5.28	9.90
壁	19	20	6.37	2.86	18.22	5.28	3.39
壁	20	21	6.37	0.95	6.05	5.28	1.12
壁	30	31	4.55	1.42	6.46	5.28	0.75
壁	31	32	4.55	1.42	6.46	5.28	0.75
壁	33	34	4.55	1.11	5.05	5.28	0.59
壁	34	35	4.55	0.95	4.32	5.28	0.50
壁	37	38	3.64	1.04	3.79	5.28	2.79
壁	39	40	3.64	1.17	4.26	5.28	3.14
壁	40	41	3.64	0.51	1.86	5.28	1.37
壁	42	43	3.64	0.00	0.00	5.28	0.00
壁	45	46	2.73	0.95	2.59	5.28	6.17
壁	49	50	0.91	1.17	1.06	5.28	22.34
壁	51	52	0.91	1.04	0.95	5.28	19.86
壁	52	53	0.91	1.04	0.95	5.28	19.86
壁	53	54	0.91	1.17	1.06	5.28	22.34
				25.64	135.48		179.78
				あ	い		う

一般診断法
現状

7. 偏心率計算表(明細)

日付:2017年02月06日 9:31:05
建物コード:000000
財来一郎(在来軸組構法)

[2階Y方向]

属性	柱1	柱2	A X座標	B 耐力 Sw	C 耐震要素 (耐力×座標) A＊B	D 剛心X座標 い／あ	E ねじり剛性 B＊(A－D)^2
壁	1	13	0.00	1.17	0.00	6.87	55.22
壁	3	14	1.82	1.11	2.02	6.87	28.30
壁	5	15	3.64	1.11	4.04	6.87	11.58
壁	6	16	5.46	0.95	5.19	6.87	1.88
壁	9	21	9.10	1.91	17.38	6.87	9.49
壁	10	22	10.01	1.91	19.12	6.87	18.83
壁	12	17	12.74	1.17	14.91	6.87	40.31
壁	13	18	0.00	1.17	0.00	6.87	55.22
壁	15	23	3.64	1.91	6.95	6.87	19.92
壁	19	24	5.46	0.95	5.19	6.87	1.88
壁	22	26	10.01	0.95	9.51	6.87	9.36
壁	27	36	12.74	1.17	14.91	6.87	40.31
壁	28	37	0.00	1.17	0.00	6.87	55.22
壁	29	40	3.64	0.95	3.46	6.87	9.91
壁	30	43	5.46	0.95	5.19	6.87	1.88
壁	33	45	9.10	1.91	17.38	6.87	9.49
壁	36	44	12.74	1.17	14.91	6.87	40.31
壁	43	47	5.46	2.08	11.36	6.87	4.13
壁	46	53	10.01	1.91	19.12	6.87	18.83
壁	47	49	5.46	1.04	5.68	6.87	2.06
壁	48	55	12.74	1.17	14.91	6.87	40.31
				27.83	191.23		474.44
				あ	い		う

一般診断法
現状

8. 劣化度による低減係数

日付：2017年02月06日 9:31:05
建物コード：000000
財来一郎(在来軸組構法)

部位		材料、部材等	劣化事象	存在点数		劣化点数		
				築10年未満	築10年以上	部位なし	劣化あり	劣化なし
屋根葺き材		金属板	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれがある	2	②	－	2	⓪
		瓦・スレート	割れ、欠け、ずれ、欠落がある					
樋		軒・呼び樋	変退色、さび、割れ、ずれ、欠落がある	2	②	－	2	⓪
		縦樋	変退色、さび、割れ、ずれ、欠落がある	2	②	－	2	⓪
外壁仕上げ		木製板・合板	水浸み痕、こけ、割れ、抜け節、ずれ、腐朽がある	4	④	－	④	0
		窯業系サイディング	こけ、割れ、ずれ、欠落、シール切れがある					
		金属サイディング	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれ、目地空き、シール切れがある					
		モルタル	こけ、0.3mm以上の亀裂、剥落がある					
露出した躯体			水浸み痕、こけ、腐朽、蟻道、蟻害がある	2	②	－	2	⓪
バルコニー	手すり壁	木製板、合板	水浸み痕、こけ、割れ、抜け節、ずれ、腐朽がある		①	－	①	0
		窯業系サイディング	こけ、割れ、ずれ、欠落、シール切れがある					
		金属サイディング	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれ、目地空き、シール切れがある					
		外部との接合部	外壁面との接合部に亀裂、隙間、緩み、シール切れ・剥離がある		①	－	1	⓪
	床排水		壁面を伝って流れている、または排水の仕組みが無い		①	－	1	⓪
内壁	一般室	内壁、窓下	水浸み痕、はがれ、亀裂、カビがある	2	②	－	2	⓪
	浴室	タイル壁	目地の亀裂、タイルの割れがある	2	②	－	2	⓪
		タイル以外	水浸み痕、変色、亀裂、カビ、腐朽、蟻害がある					
床	床面	一般室	傾斜、過度の振動、床鳴りがある	2	②	－	②	0
		廊下	傾斜、過度の振動、床鳴りがある		①	－	1	⓪
	床下		基礎のひび割れや床下部材に腐朽、蟻道、蟻害がある	2	②	－	2	⓪
			合計	24		7		

劣化度による低減係数 dK	
1−（劣化点数/存在点数）＝	0.70

注）低減係数が0.7以上となった場合はその数値を、0.7未満の場合は、0.7とします。

※劣化の種類について
築10年未満の住宅で起きている劣化現象は、建築時の不具合による可能性が極めて高いと言えます。そのような不具合による劣化が関係するのは、上記表の「／」以外の部位にあたります。
築10年以上の住宅では、時間の経過による自然な劣化がおきてきます。このような自然の劣化には、上のすべての項目が関係してきます。
ただし、築10年未満の住宅であっても、「／」以外の部位に劣化が発見された場合は、築10年以上の住宅と同様に、すべての項目について調査を行います。